

2022年1月4日

2022年、新年に想う – 多様な価値観を包み込み、人々が生き生きと活動できる未来へ –

九州工業大学学長 尾家祐二

“未来を思考する「モノづくり」と「ひとづくり」”

新年おめでとうございます。

昨年も、新型コロナウイルス感染症の拡大は収まらず、8月から9月にかけてピークを迎えたいわゆる第5波の際には、むしろ過去最大の感染状況の悪化となりました。その際には、本学においてもそれまでと比較して多くの学生、職員が感染し、心配しましたが、幸いにもいずれも重症化には至らず、また、キャンパス内でのクラスターも発生しませんでした。そして、その後は、現在に至るまで感染状況はかなり抑えられ、経済活動も徐々に活発になってきております。ただし、変異株の出現もあり、第6波が起きないように、引き続き感染防止のための配慮が必要な状況ではあります。

このような状況ではありますが、新年に当たり、過去を振り返り、学ぶ機会とし、未来について思いを馳せる機会にもしたいと思い、この「新年に想う」を執筆します。過去の困難な時代の一つの例として、世界的な経済恐慌の時代があります。そのような中であって、経済学者のケインズは、1930年に、「現在の近い将来について検討することではなく、自分自身を短期的な見方から解き放ち、未来に飛翔すること」を目的とした論文「わが孫たちの経済的可能性」を著しています。その中で、「進歩的な諸国における生活水準は、今後100年間に、現在の4倍ないし8倍の高さに達する」と予言し、「重大な戦争と顕著な人口増加がないものと仮定すれば、経済問題は、100年以内に解決されるか、あるいは少なくとも解決のめどがつくであろう」と結論付けています。さらには、1日3時間、週15時間の労働時間で足りる世界について述べています。

それから90年経過した今日、ケインズの仮定とは異なり、その後第二次世界大戦や、爆発的ともいえる人口増加も起きましたが、この間、経済は目覚ましく発展し、生活水準は8倍近くに向上しました。一方、労働時間については、予言のように少なくなっているわけではありません。そして、働き方については、この度のコロナ感染症の拡大により大きく影響を受けました。オンラインによる活動が増えデジタル化が進み、働き方だけでなく学び方も変わり、生活様式そのものについても考える機会になりました。コロナ禍の中、未来に飛翔して想像すると、それぞれの人たちが、様々な制約を乗り越え、多様な生活様式をより一層楽しむことができる世界になることを願います。

ケインズが直面した経済恐慌の後、世界は第二次世界大戦を経験します。私たちの父母や

祖父母の世代は、語りつくせない凄惨な経験をしたことでしょう。そのような世代のひとりである茨木のり子氏は、19歳の時終戦を迎え、その後、多くの詩やエッセイを残しています。私は学生時代に、他の本と同様に誰かに薦められて読み始めたのでしょうか。その中に51歳の時の詩集「自分の感受性くらい」があります。そこでは、

駄目なことの一切を  
時代のせいにするな  
わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性くらい  
自分で守れ  
ばかものよ

と強い意志を示し、73歳の時の詩集「倚りかからず」では、できあいの思想、宗教、学問や権威に倚りかかりたくないと述べ、

じぶんの耳目  
じぶんの二本足のみで立っていて  
なに不都合のことやある

と、言い放っています。変化の多い時代だからこそ、このように、自分の感性、考え、言葉を磨くことが大事になります。そして、自分なりの発見を大切に、それを言葉にすることにより、孤立するのではなく、人と繋がっていくことができると思います。

大学は、今を大切に、成長し続けている学生が学ぶ場です。そして、彼らが生きる未来について思いを馳せる場でもあります。未来は、多様な価値観を包み込み、育み、人々が生き生きと活動できる世界であってほしいと願っています。そのためには、何が大切であるかを認識し、守るべきものを守り、変革すべきことは変革し続け、そしてなにより協力しあう文化を醸成し続けることが必要と考えます。

なお、私事ですが、学長の任期は今年3月末をもって満了します。この6年間、皆様方からは多大なるご協力とご支援を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。お陰様を持ちまして、学習、研究の国際的な連携活動、産学連携活動が一層活発になり、学生、職員も活力を増したと思います。未来を担う人が育ち、未来を築く新たな知恵を生み出す本学の活動に、引き続きご理解、ご協力並びにご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方が多くのよい機会に恵まれ、充実した1年になりますこと

を祈念しまして新年のご挨拶とさせていただきます。

[参考]

1. ケインズ著「わが孫たちの経済的可能性」ケインズ全集第9巻、東洋経済新報社  
1930年活字になり掲載（1928年講話、1930年講演）

最近では、下記の書籍等で、触れられています。

ロバート・スキデルスキー、エドワード・スキデルスキー著「じゅうぶん豊かで、貧しい社会」筑摩書房、2015

ジェイムス・スーズマン著『『本当の豊かさ』はブッシュマンが知っている』NHK出版、2019.

2. 茨木のり子著「自分の感受性くらい」花神社刊、1977.

茨木のり子著「寄りかからず」筑摩書房刊、1999.

多くの味わい深い詩が掲載されています。

その他、茨木のり子著「言の葉さやげ」花神社刊、1975. も参考に。